

はじめに

県民が待望していた沖縄県立博物館・美術館が開館して3年目になります。その間、約118万人近い来館者がありました。その数は、皆様がいかに博物館・美術館の活動に期待しているかの表れであり、同時に我々の責任の重さを感じております。

美術館の活動には大きく分けて4つの活動があります。「展示活動」「収集活動」「保存・修復活動」「教育普及活動」です。

県立美術館が単なる施設ではなく文化の発信地となるためには、美術館側の専門的なアプローチだけでなく、誰もが美術や芸術に対し興味・関心を持てる場所になることが大事です。そのきっかけを担う活動が教育普及活動だといえます。

本美術館は開館前から、教育普及活動を継続してきており、開館後と合わせるとかなり多くのイベントやワークショップ、講座等多数のプログラムを実施してきており、本報告書は、美術館が平成21年度に実施してきた、キュレーター・トークやアーティスト・トーク、各種ワークショップ等の普及活動の実績を取りまとめたものです。

本報告書が、多くの人々にとって県立美術館を活用する一助になれば幸いに存じます。

沖縄県立博物館・美術館 館長 牧野 浩隆

美術館教育普及とは

当美術館における教育普及活動は、「鑑賞活動の支援」「実技体験の支援」「発表活動の支援」を主な活動項目として捉え、プログラムを構成しています。

鑑賞活動のプログラムとして、展示作品の理解を深めるため、月1回担当学芸員によるキュレーター・トーク、展示作家やその関係者を招いてのアーティスト・トーク、ギャラリー・トークを開催し、また同様に月1回程度の頻度で、来館者と鑑賞ボランティアが互いに会話を通し作品を鑑賞する「対話式鑑賞法」という手法を取り入れた展示作品の鑑賞会を行っています。

実技体験の支援プログラムでは、県民アトリエ・こどもアトリエを活用して、企画展や常設展示に関連した内容で各種実技講座を企画・開催しました。その他の活動として、誰もが美術作品に慣れ親しむ機会になればと、企画展・常設展示会のシンポジウムや美術講座・文化講座などの館内活動のみならず、離島などの僻地に赴く移動展、学校との連結を図るために実施した「対教師講座」等があります。



美術館準備室時代の2006年から、ボランティア・グループと協働で、アメリア・アレナスの提唱する「対話式鑑賞法」を導入してきた。これは表現力を高める鑑賞法で、参加者が美術作品を前に、自分の言葉で伝え合うものである。

キュレータートークは、展覧会を担当した学芸員が、その見どころや面白さを紐解いていくものである。＜知への娯楽＞への水先案内人として、ねらいは＜普及＞であり、先の鑑賞法などの、＜美術館教育＞とは性格を異にする。

参加者の中から「鑑賞ボランティアとして実践する人が出てきて欲しい」と思うと同時に、私たちは、そのきっかけ作りに、今後も水先案内人として、コミュニケーションを続けていくのである。（豊見山）

私は現職に就く前から通算して、20年あまり美術館施設に携わっているが、「美術作品は人を選び、場所を選んでやってくる」ということを、常々感じている。殊更、当館のコレクションは、過去から未来の沖縄へと語り継ぐために、ここを拠り所としてくれる美術作品である。だからこそ、調査研究は重要となるが、知るほどに、戦後沖縄文化の重厚な諸相に触れて、心細くなる。

そのようななかで、ここ数年のキュレータートークは、毎回数名の一般参加者と語り合うインタラクティブ（双方向型）な雰囲気へと変化していて、特にご年配の方々には、私が＜耳学問＞させていただくことも多々ある。私にとってキュレータートークは、鑑賞者と学芸員とを繋ぎ、共に知性と感性を磨く、芳醇な美術鑑賞の時間である。

豊見山 愛（美術館学芸員）





「作品についてお喋りしよう、一人では見えてこなかった何かが見えてくるかもしれない。」

来館者と一緒に作品を鑑賞し、展示室を案内する「鑑賞ボランティア」は、学芸員や専門家ではない鑑賞者に近い立場だからこそ共感できる部分があり、お喋りの相手には申し分ないといえるだろう。

「好きな色だな」「面白い形」「〇〇に似ている」など、思い付くままに感想を言い合うことで、新たな発見とともに作品への愛着も次第に湧いてくるようだ。自由にみて感じる事が、鑑賞の根本のように思う。



鑑賞ボランティアに参加して

湯野川恭子

鑑賞ボランティアに参加して思ったのは、「作品って人それぞれ、いろんな見方や感じ方があるんだなあ」ってということ。一方的に知識を披露する解説ツアーではなく、対話式の鑑賞だからこそ、作品を複数の目で見ると見る楽しみも生まれるのだと思います。

また、作家さんから直接お話を伺えるアーティスト・トークは良い経験になりました。西村貞雄先生に作品『僻日』を前にしてお話して頂くと、作品の世界が広がります。与久田健一先生にエアブラシの技法を見せて頂くと、技法の理解は作品の理解につながります。今後実施して欲しいのは、鑑賞ボランティア対象のバックヤードツアーです。ボランティアが美術館の裏側や仕組みを知ると、美術館に対する理解がもっと深まると思います。

鑑賞ツアーに関しては、今の対話型の鑑賞ツアーをもっと進化させるとともに、県外からの来館者に沖縄の美術を知ってもらうための、コレクションギャラリー3を中心とした解説型のツアーなどもあったらいいなと考えます。

離島からの参加なので活動が限られてしましますが、これからもよろしくお願い致します。





現代美術を取り扱う当館では、収蔵作家の多くが健在で、作家の声を聞く場としてアーティストトークを実施している。展示室内で作品を前に制作過程の話を聞いたり、講座室で作家のこれまでの活動を資料などで紹介したり、実際に制作技法をアトリエで披露したり、作家によって様々な内容で行われてきた。

作家と直接対話ができるのは、同時代を生きる私たちの特権といえるだろう。アーティストは遠い存在ではない、もっと身近に感じることに繋がればと期待したい。



「僻日」 1976年制作

西村貞雄（琉球大学名誉教授）

制作した意図

「何を表現したいか」「制作するとは何か」と、問いつめていた。それで、身近なものにテーマを求めたものが「老婆の姿」であった。芭蕉布の張りのある形と頭髮の結び方との兼ね合いによる量感のある形態に魅力を感じた。また、モデルが私の祖母という身近に接している者であることから情情的にも動かされ動機となった。

この作品を制作している頃は、まだ「うちなーかんぷう」が見られたが、徐々にその姿が消えていく状況にあった。沖縄が本土復帰して4年後のことである。

老婆が鶏に餌をあたえている情景を設定し、対話する空間を意図したことから向かい合わせ、老婆の両袖を広げて大きな面をつくり、焦点は鶏に合わせた。横からの構成としては、老婆の頭・肩・尻・膝にかけて弧を描く形にして鶏との関連性を求めた。形態としては尻を踵に乗せ、膝に重心を置いて量感のある形をねらった。

「僻日」は、都市部では見られない、のどかな環境の僻地で和やかに日々を過ごしている状況をイメージし作品名とした。

アーティストトークでは、参観者から制作動機や「ねらい」についての話があったので、予め準備した資料を配布した。しかし、私が予想もしなかった視点からの質問があり、それに答えることによって私が気付かなかったことが多くあって、トークすることの意義を強く感じた。



博物館・美術館をより知ってもらうことをねらいとし、ふだん入ることの出来ない館の裏側にある部屋を案内。作品が保管・管理されている収蔵庫、作品の修復を行う修復室、学芸員が仕事を行う学芸員室などを見学する。どの部屋も通常は行くことのできない部屋である。

参加者は、学芸員の仕事を知り、館の仕組みを見ることで、より館に親しみを持ってくれたのではないだろうか。



コレクションギャラリーの展示内容に連動して、水彩画・エッチング(版画)のワークショップ(実技講座)を開催した。水彩画では、水彩の技法を学ぶだけでなくコラージュを使って作品の完成度を高めた。エッチングではプレス機など、はじめて目にする道具を前に版画の面白さを知り、講座終了後も受講生が活動が続けるなど、自発的な美術活動を促す一助になり得たと思う。



「水彩・絵の具で遊ぼう」

講師：池原優子氏(画家)
日程：6月7日(土)・14日(土)
・21日(土)14:00～16:00
場所：県民子供アトリエ
参加者：14人

「エッチング講座」

講師：瑞慶山昇(美術館学芸員)
日程：9月26日(土)・
10月3日(土)・17日(土)
10:00～16:00
場所：県民子供アトリエ
参加者：13人





多様化する表現手段として存在する身体を使った創作活動は、まさに『いま、ここで』起きている現場性を踏まえた表現活動といえる。

今年度は新たな側面として、映像のジャンルを取り込み、映像と身体の間わりを実際に体験するワークショップを開催した。

参加者は、映像という新境地の中で、生身の表現に対する関心が一層深まったように見えた。この分野が普及していくには、こういったワークショップと併せて公演会など作品発表する場の提供も鑑賞する力を育てていくために必要と考える。その繰り返しこそが、着実に社会に定着していく基盤となるだろう。



クリエイション・ワークショップ・ショーイングに参加して

身体と映像でひとつの作品をつくっていく、作品の可能性が広がり映像遊びができるかなど最初かたんに考えていましたが、作っていく過程は身体だけのダンス作品と変わらず、自身の心と身体を見る過程でした。それでいて、作品は映像がはいりだけで、生身からはなれたショートムービー的な感覚で見られ、出演していてもおもしろい感覚でした。

知花幸美（YUKIMI バレエ・コンテンポラスクエア主宰）

クリエイション・ワークショップ、ショーイング

映像を使ったダンス & パフォーマンスのクリエイション・ワークショップの開始、11名の参加者は事前に課されたお題を基に作品を制作、ワークショップ最終日に一般の方に向け作品発表（ショーイング）を開催した。

クリエイション・ワークショップ 1

講師：飯名尚人
（映像作家 / Dance and Media Japan ディレクター）
日程：7月14日（火）～20日（月祝）
平日：19:00～21:30 / 土日祝：13:00～18:00
場所：県民子供アトリエ
参加者：11名

ショーイング

日時：7月20日（月祝）15:00～17:00
場所：県民子供アトリエ
参加者：11名（出演者）20名（一般聴講者）



クリエイション・ワークショップ 2

11月28日（土）より映像を使ったダンス & パフォーマンスのクリエイション・ワークショップの後半を再開（12月まで連続）。

講師：飯名尚人氏
日程：11月28日（土）～12月5日（土）
平日：19:00～21:30 / 土日祝：13:00～18:00
※ 11月30日（月）休館日
場所：県民子供アトリエ
参加者：10名

「ここだけの踊りのはなし」

12月6日（日）に開催される催事「踊りに行くぜ」の出演者する映像・音楽・踊りといった様々な分野で活動されている方々の話を紹介。

日程：12月5日（土）15:00～17:00
場所：美術館講座室
一般参加者：38人





教師のための美術館講座

県内の図工科及び美術科の教員対象に、鑑賞授業についての指導向上や美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での教育普及に役立ててもらうことを目的として開催した。

14日(金)には文科省教育課程調査官の奥村高明氏をお招きし、美術作品の鑑賞方法についての講話、また実際にコレクションギャラリーにてギャラリートークを行うなど実践的な方法が学べる有意義な内容だった。

日程：8月12日(水)・13日(木)・14日(金)
9:00～16:30
場所：美術館講座室

【日程】

8月12日(水)	9:00～9:20	受付(講座室)
	9:20～9:30	日程説明(講座室)
	9:30～9:45	挨拶(舩長直樹 副館長)
	9:45～10:45	施設見学 ①常設展示場 ②アトリエ・スタジオ等(國吉亮子 主任学芸員)
	10:45～11:00	休憩
	11:00～11:30	常設展示について(豊見山愛 主任学芸員)
	11:30～12:00	美術品の保存や美術品の保存や管理について(仲村美奈子 保存修復担当学芸員)
	12:00～13:00	昼食
	13:00～13:50	新指導要領(小・中)と美術館との関わり方(端慶山昇 主任学芸員)
	13:50～14:00	休憩
	14:00～15:00	美術館における教育普及活動の教育普及活動の体験① キュレーター・トーク(新里義和 主任学芸員)
	14:45～15:00	休憩
	15:00～16:00	美術館における教育普及活動の教育普及活動の体験② ドーセント・ツアー(対話式鑑賞法の鑑賞法の実践)(美術館支援ボランティア)
	16:00～16:30	意見交換 アンケート
	16:30	閉会
8月13日(木)	9:00～9:20	受付(講座室)
	9:20～9:30	日程説明(講座室)
	9:30～9:45	挨拶(舩長直樹 副館長)
	9:45～10:45	県企画展「名瀬山愛順展～名瀬山愛順が見た沖縄～」(担当学芸員 豊見山愛)
	10:45～11:00	休憩
	11:00～12:00	県企画展「沖縄ルーツシリーズ タカエズトシコ展」の概要について説明 (担当学芸員 大城仁美)
	12:00～13:00	昼食
	13:00～13:30	ティーチャーズキットを使用した鑑賞授業の紹介(國吉亮子 主任学芸員)
	13:30～16:00	受講者対象ワークショップ「名瀬山愛順展」「タカエズトシコ展」のワークシート作り ※グループを作りその中で10/30より開催される県企画展の 学校対応のワークシートを作成する。 ※ワークショップで作成した内容は、実際の企画展用ワークシートとして 採用し活用する。
	※途中 14:30～14:45 15:30～15:45 に休憩を挟む	
	16:00～16:30	意見交換 アンケート
	16:30	閉会
8月14日(金)	9:00～9:20	受付(講座室)
	9:20～9:30	日程説明(講座室)
	9:30～9:45	挨拶(舩長直樹 副館長)
	9:45～10:45	ティーチャーズキットを使用した鑑賞授業の紹介(國吉亮子 主任学芸員)
	10:45～11:00	休憩
	11:00～12:00	県立美術館ができるまで…(美術館副館長 舩長直樹)
	12:00～13:00	昼食
	13:00～14:00	美術作品の鑑賞法について(教育課程調査官 奥村高明)
	14:00～15:10	休憩
	15:10～16:10	奥村高明氏によるギャラリー・トーク ※元宮崎美術館学芸員であった、奥村調査官が県の常設展示場を活用し、 美術作品を受講生と一緒に鑑賞する。
	16:10～16:30	意見交換 アンケート
	16:30	閉会



美術館では、月一回で開催しているキュレータートーク、アーティストトーク以外にも様々な催事を行っている。

音楽と絵画を融合させたライブイベントや、収蔵作品の映画上映会、館の外に出向きフィールドワークを行う講座など、幅広い内容で多くの方に参加いただけた。

今後も、要望に応えた多彩な活動を行っていきたいと考えている。



ライブイベント

「音に合わせて絵を描こう」

日時：6月21日(日)10:00～12:00
場所：美術館屋外展示場
参加者：親子10組(子供13名)

「ライブ・パフォーマンス」

出演：Iora+ 神田サオリ(踊絵師)
日時：6月21日(日)18:00～19:30
場所：美術館屋外展示場
参加者：174名

現代美術講座

「詩は絵の如く、絵は詩の如く 言葉と絵画～芸術の時間と空間
[芸術をわかるとは何か]」

日本を代表する造形作家であり、批評家の岡崎乾二郎氏、詩人のばくきょんみ氏を講師に迎え、美術講演会を開催。岡崎氏の講話に加え、ばく氏の詩の朗読など即興の要素を含んだ講演会となった。

講師：岡崎乾二郎氏(造形作家・批評家)、ばくきょんみ氏(詩人)
日程：8月23日(日)14:00～16:30 場所：講堂 参加者：89人

美術館文化講座「文化として考える辻」

1672年より交遊の場としてあった那覇市辻は、独特の文化が発達したことで知られていますが、第2次世界大戦の10・10空襲によって焼け払われました。その270余年の間続いた「辻文化」を琉球文化の一要素として捉えなおす試みとして講座等を開催した。

講座

講師：崎間龍進氏(那覇市文化財調査審議委員)
日程：11月14日(土)・21日(土)10:00～11:30
場所：博物館講座室
参加者：20人(14日)・62人(21日)

映画上映+トーク

映画「吉屋チル―物語」
トーク「都市としての「辻」」
対談：翁長副館長、親泊仲真氏
日程：12月20日(日)
場所：講堂 参加者：142人

拝所めぐり

案内：國吉亮子(当館美術館学芸員)
日程：12月12日(土)14:00～16:00
場所：辻周辺 参加者：18人

美術館コレクションギャラリー展 関連事業特別講演会

「モダンを超えて―1980-2000年代の現代美術の展開」

高名な美術評論家の松井みどり氏をお招きして、現代美術の表現について作品の画像を交えてお話いただいた。

文化人類学、社会学、ポスト構造主義やポスト植民地主義の理論を取り入れ、現代社会と芸術との関係について、思考し、意見を交換するための場としての芸術の言説性が強く押し出された80年代、90年代には、個人の内面や無意識の表現も現代美術として認知される一方で、60―70年代芸術の前衛芸術の方法を踏襲しながら、そこに今日的な状況や感覚を盛り込む、新しいコンセプチュアル芸術が登場した。00年代には、グローバル化による生活や社会体験の急激な変化に対応した芸術が、アジアやアフリカ、ラテンアメリカと言った地域から多く現れた。

かつての芸術への絶対的な判断基準がなく、中心と地域、公と私の間の境も揺らいでいる時代における芸術表現の魅力に触れて、参加者の熱気に包まれた講座となった。(豊見山)

講師：松井みどり氏(美術評論家)
日時：2010年3月31日(水)18:30～20:30
会場：沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室 参加：43名



県内の写真に関心のある高校生を対象に6月20日(土)～7月17日(金)の期間美術館コレクションギャラリー1岡本太郎・東松照明「まなざしの向こう側」を無料鑑賞してもらい、鑑賞後、展示されている写真や、日頃の活動で抱えている写真に関する質問を募集した。

7月19日(日)午後2時から博物館講座室にて写真家の東松照明氏に質問に答えてもらいました。巨匠を前に高校生は緊張の面持ちでしたが、様々な質問が飛び交い活発な質問会となりました。

高校生「写真をやめようと思ったことはないですか？」
東松先生「これが不思議とないんだよね。」

「東松先生 写真のこと教えて下さい！」

講師：東松照明氏（写真家）
日程：7月19日（日）14:00～15:30
場所：博物館講座室
参加者：48名（生徒）22名（一般聴講者）

事前観賞会

「東松先生 写真のこと教えて下さい！」開催に向け、事前に観賞会を実施。

7月12日（日）
講師：大城仁美・新里義和（美術館学芸員）
時間：11:00～12:00
場所：コレクションギャラリー1
参加者：28名

7月19日（日）
講師：新里義和（美術館学芸員）
時間：11:00～12:00
場所：コレクションギャラリー1
参加者：19名



県内の写真に関心のある高校生を対象に3月26日(金)午前10時から12時、真和志高校、視聴覚教室写真家の石川直樹氏に質問に答えてもらった。石川氏が高校生のときに初めて海外に行った話など興味深く耳を傾けていた。

高校生「はじめて旅をしたのはいつですか？」
石川先生「海外は高校生のとき、ネパールに行くと言ってインドに行った。国内は中学生のときに一人旅した。」

高校生「どんなときに写真を撮りますか？」
石川氏「驚いたときなどに思わずシャッターを切る。常に好奇心を持って世の中と接していきたい。」

「石川先生 写真のこと教えて下さい！」

講師：石川直樹氏（写真家）
日程：3月26日（金）10:00～12:00
場所：真和志高校 視聴覚教室 参加者：22名（生徒）





移動展は、ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶ機会の少ない離島や遠隔地の方々にも当館の収蔵作品を公開することで、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供することを目的に行っている。

第二回目となる本年は10月23日(金)～25日(日)久米島、具志川農村環境改善センターでの開催となった。三日間という短い会期ではあったが、オープニングセレモニーでの久米島西中学校・吹奏楽部による華やかな吹奏楽演奏を皮切りに延べ人数1155人と多くの来場者に足を運んでいただけ、現地にて当館の紹介が出来たことは嬉しく思う。

作品展示のみならず、収蔵している映像作品の紹介を別会場・久米島自然文化センターで行うなど多面的な試みを実施した。



【参加者の声】

性別・年齢	一番印象深い展示	どうでしたか
男 10 代	きょうりゅうのか石	やってほしい
男 10 代	ムカシオオホオジロザメの歯	ムカシオオホオジロザメの歯
女 30 代	恐竜	また開催して欲しいです
女 30 代	港川人	またやってほしい
女 30 代	恐竜	是非開催して欲しい。
男 60 代	化石が印象に残りました	開催して欲しいと思います
女 40 代	昔の写真	Yes
男 40 代	港川人	勉強になりました。また開催してほしいです。
男 50 代	久米島(本島)にいた雉・鳥・爬虫・生物がほとんどわからないのでびっくりしました。今からでも自然を大切にしようと思いました。	子供達の為にもぜひ夢をもってもらい続けて欲しいです。
男 40 代	地学・生物・歴史	良かった。ぜひ開催して欲しい。
男 40 代	歴史展示物	良い事だと思います。なかなか行けないので
女 40 代	港川人	とても良かったです。また開催してほしいです。
女 50 代	DVD 人類	何かに度に開催してほしい
女 30 代	きょうりゅう・ホモサピエンス・りゅうきゅうかんむりわし	お願いします
男 10 代	ホテル石	はい
女 30 代	きょうりゅうの骨	とても勉強になった。また開催してほしいです。
男 50 代	琉球の歴史	開催して欲しい
女 8 さい	ぜんぶ	すごかった。またやってほしいです。
女 8 さい	ぜんぶ	はい、やってほしいです。
女 40 代	港川人	楽しかった。子供が興味を示して良かった。勉強にもなった。
男 30 代	サウロロフス	強く思う
男 10 代	サウロロフスの化石	はい
女 20 代	動物のコーナー	沖縄の事をもっと知りたくなりました。尚氏についてもっと知りたいです。またお願いします。
女 30 代	歴史	できればぜひまた開催してほしい
男 10 代	水晶	思います
女 20 代	港川人	はい!是非お願いします。
女 30 代	沖縄のがんぐ	ぜひまたしてほしい
女 50 代	恐竜の化石	開催してほしいと思う
女 30 代	きょうりゅう	大変良かったです。
女 40 代	「沖縄の生き物たち」のコーナーでした・米軍が嘉手納に上陸する所の写真(こわいなあと感じました)・絵画すごいです。	とても良かったと思います。又ぜひ開催してほしいです
女 40 代	生物	はい、又次も見に来たいです。
女 30 代	恐竜	ぜひまた開催してほしい
男 60 代	恐竜	知識の確認が出来て意義深い。さらに知らなかった事が多い事の確認も出来て大満足です。ありがとうございます!!
男 30 代	写真・石	是非お願いします。
女 50 代	民具体験コーナーで、子供(4才)が興味を持って見ていました。みの(?)をかけたリして、クバオージをハタタタしたり、港川人がどうしてはだかているのか?棒を持っているのか?鳥を持っているのか?いろいろ質問されました。	多種類の展示物があった良かったです。また開催して欲しいですね!!
女 20 代	きょうりゅうの骨	開催してほしい
女 40 代	恐竜模型	大変良かったです。是非次回開催を期待します
女 50 代	久米島切手と宇根の大ソテツの切手(1945年発行)	沖縄本島で時間をつくってみることはあまりできないのでとてもいい企画だと思います。ありがとうございます。
女 70 代	琉球の島の成り立ちと貿易	出来れば2・3年に一度開催がほしい
女 30 代	恐竜	ぜひお願いします。子供達にとっても良い体験になります。
男 30 代	線刻石版	子供達に良い刺激になるのでまた開催して頂きたいです。
女 40 代	全部良かったと思います。	ぜひ開催してもらいたいです。
女 20 代	ホモサピエンスがリアルすぎた。	色んな展示があり、色々勉強になった。ぜひまた久米島で開催してほしいです。
男 70 代	人類	開催してほしい
女 20 代	クメトカゲモドキ見たことないから見てみたい	ぜひまたやって欲しい
女 30 代	恐竜の化石	楽しかったです。島には博物館がないので。
女 10 代	港川人	もっといろんな人の模型増やして欲しいな。
女 10 代	キョウリュウがすごかった	おもしろかった。
女 10 代	ホモサピエンスすごかった。あと化石とかきれいだった!!	思います!
女 60 代	琉球歴史に関する資料。切手類等	このような機会はめったにありません。又企画してほしいです。
女 40 代	石膏・重晶石など	とても内容のこいで良かった。久米島で見る機会がないので是非来て下さい。
女 30 代	恐竜の展示に子供たちも大喜びでした。	是非とも毎年開催してほしいです。
女 10 代	鉱物	思う



展覧会企画意図

郷土画家、名渡山愛順の絵画的な主題は、身近な人々を描いた作品群によって汲み取ることができる。東京美術学校在学中から帝展に入選、若くして才能を開花させた名渡山が、人体の描写を獲得したのは学生の頃であった。卒業後に奉職した沖縄県立第二高等女学校の女学生たちをモデルに描き始めた戦前から1970年に没するまで、卓越した表現力で古き良き沖縄へのノスタルジーそのままに沖縄の女性を描き続けた。40歳に終戦を迎えた名渡山が、戦後間もない焦土に、ニシムイ美術村をつくり沖縄美術の固有性、行く末を問う姿や、生命感溢れる女性像に、渡名喜瓶や朱漆の足付膳、紅型などの伝統品を散りばめた作品を堪能する。ノーマルでノブールな名渡山の表現は、飽くことのない沖縄愛に満ちている。(豊見山)

附帯イベント企画意図

＜美術館教育＞が注目されている近年、教育プログラムは重要となるが、今回は学校との連携を試みた。県立首里高校染織デザイン科の校外学習に協力できたことや、念願だったキッズ・キュレーターを実施できたことは、ひとえに学校関係者のご尽力によるものである。そのほか、「名渡山が愛した琉球舞踊鑑賞会」や、通常タブー視される展示室での作品模写など、講師がレクチャーを行なう講座形式ではなく、鑑賞の楽しさを伝えることに軸をおいた。

名渡山愛順が愛した琉球舞踊鑑賞会「名渡山ホール、ふたたび。」

名渡山愛順の作品にある演目を、一線におられる琉球舞踊家に踊っていただく展覧会記念事業である。戦後、私設運営の＜名渡山ホール＞で、絵のモデルとなった玉城節子、又吉静枝両氏に、格別のはからいをいただいて、郷土沖縄の復興に力を注いだ名渡山の心を再現し、多くの美術、琉球舞踊ファンが歓喜した。また、特別ゲストの久場とよ氏は、恩師との思い出を一言、一言に紡いで、ありし日の姿を偲び、和やかな空気に包まれた。

日時:11月7日(土)13:30~14:45

場所:3階講堂

主催:沖縄県立博物館・美術館、(株)沖縄文化の杜
トークゲスト:久場とよ(美術家・県立第二高等女学校時代の教え子、以降は名渡山に師事)

企画進行:崎山律子

入場者数:208名

演目:「若衆こてい節」玉城術香(玉城流ていだの会)
又吉聖子(玉城流いずみ会)
「諸屯」玉城節子(玉城流翔節会家元・国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者)
「花風」又吉静枝(玉城流いずみ会家元・国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者)
「しゅんだう」嶺井清美、宮城裕子、喜納かおり、眞境名由佳子(眞境流)
「糸満乙女」眞境名英美、喜屋武愛香(眞境名本流)
「銭鳴りひゃー」嶺井清美、宮城裕子、喜納かおり、眞境名由佳子(眞境流)

地謡:＜歌・三線＞又吉康春、新垣俊道、仲村逸夫(野村流古典音楽保存会)

＜箏＞赤嶺和子(琉球箏曲保存会)

＜笛＞仲田治巳(野村流古典音楽保存会)

＜胡弓＞又吉真也(野村流古典音楽保存会)

＜太鼓＞比嘉聡(光史流太鼓保存会)

美術館プログラム模写

などやま先生になりきろう!

名渡山愛順展、展示作品の模写

「真似ぶ」＝「学ぶ」ことは、創作の源であるが、この企画は、名渡山愛順が東京美術学校の学生時代に、「一ヶ月にバケツ一杯の絵の具の空チューブが出た」ほど、猛烈に模写をしていたことから着想を得た。作品の所有者及び著作権者であるご遺族の許可を得て、照度は通常の展示環境と同様にしたが、苦情などはなく「良かった」という声が多かった。

日時:展覧会会期中 毎週金曜日

18:00~20:00

使用画材:鉛筆、色鉛筆、スケッチブック

対象者:小学生以上の一般来館者

参加者:(期間中延べ人数)45名



名渡山愛順展キッズキュレーター

担当学芸員のレクチャーを経た小学生に、今度は学芸員となってもらい、子供たちに名渡山作品の解説をしてもらった。鑑賞のリードをしてもらうようお願いをしたところ、自発的に鑑賞者側の小学生たちからも発言があつて、良い経験になったのではないかなと思う。

日時:12月19日(土)15:00~15:30

場所:名渡山愛順展会場

キッズキュレーター:越來小学校4年
金城百香さん

参加者:越來小学校4年生4名、
シーサーキッズ(越來小学校)4名、
保護者及び教員引率6名

キュレータートーク「名渡山愛順展」

日時:11月21日(土)、

12月19日(土)14:00~15:00

参加者:11月21日(14人)、12月19日(12人)





沖縄をルーツに世界で活躍するアーティストを紹介する「沖縄ルーツシリーズ」の第1回展覧会として「タカエズトシコ展! 両親に捧ぐ-In Memory of my Parents-」を開催した。

タカエズトシコは、具志川(現沖縄県うるま市)からハワイへ渡った両親を持つ、沖縄系移民の二世であるとともに、アメリカ現代陶芸界における巨匠の一人として、高名な陶芸家である。「Closed Form(閉じたフォルム)」と呼ばれる壺の口を閉じた独自のスタイルを確立し、それまでアメリカにおいて芸術として認識の浅かった陶芸の価値を芸術の領域まで高め、アメリカ現代陶芸界において確固たる地位を築いた。

53点にのぼる世界でも有数のコレクションを展示。あわせて年譜や家族史、写真及びインタビュー映像等を紹介した。



講演会

1「移民と芸術」シンポジウム

移民と芸術の関連性についての理解を深めるため、基調講演に萩原弘子氏をお招きし、「移民と芸術」と題し講話いただいた。続くパネルディスカッションでは同氏の他、勇崎哲史氏、新垣誠氏、翁長副館長を交え、芸術表現のグローバル化の行方を議論した。

日程: 日時: 2月6日(土) 14:00～17:00

場所: 講堂 参加者: 64名

■基調講演

演題: 「移民と芸術」英国ブラックアーティストのしごと

講師: 萩原弘子氏(大阪府立大学 人間社会学部/人間社会学研究科学部長・研究科長)
研究分野: ジェンダー、芸術思想史、美学・美術史

■パネルディスカッション

ファシリテーター: 勇崎哲史氏(光画文化研究所代表、写真家)

パネリスト: 萩原弘子氏、新垣誠氏(沖縄キリスト教学院大学准教授)、
翁長直樹(沖縄県立博物館・美術館 美術館副館長)

2「タカエズトシコとアメリカ現代陶芸」シンポジウム

長年タカエズ研究に携わっておられる京都国立近代美術館・主任研究員の松原龍一氏をお招きしての基調講演、また陶芸家の奥原崇仁氏、山田真萬氏をお迎えしてのシンポジウムを実施。タカエズ氏を現代陶芸の側面から捉える貴重な機会となった。

日時: 2月13日(土) 14:00～17:00

場所: 講堂 参加者: 98名

■基調講演「タカエズトシコとアメリカ現代陶芸」

講師: 松原龍一氏(京都国立近代美術館 主任研究員)

■シンポジウム「現代陶芸の視点から—タカエズトシコの表現」

ファシリテーター: 大城仁美(沖縄県立博物館・美術館/展覧会担当学芸員)

パネリスト: 松原龍一氏、奥原崇仁氏(陶芸家)、山田真萬氏(陶芸家)

ワークショップ

講師: 金城有美子氏(陶芸家)

日程: 2月13日(土) 20日(土) 13:00～15:00【2日連続講座】

会場: 博物館実習室

参加費: 500円(1個/親子で一つの作品を作ります。) 参加者: 親子19組

キュレータートーク

日程: 1月16日・30日(土) 15:00～16:00

2月6日・27日(土) 15:00～16:00

3月6日・13日(土)・14日(日) 15:00～16:00

場所: 企画展示室

参加者: 14人(16日)/10人(30日)

14人(6日)/11人(27日)

14人(6日)/18人(13日)/24人(14日)



■キュレータートーク

1 石川文洋写真展「戦争と人間」
講師：新里 義和（美術館学芸員）
日程：4月18日（土）14:00~15:00
場所：コレクションギャラリー1
参加者：12人

2 「沖縄美術の愉しみ」
講師：瑞慶山 昇（美術館学芸員）
日程：5月30日（土）14:00~15:00
場所：コレクションギャラリー3
参加者：14人

3 「風土と自我～水が創り出す心象～」
講師：國吉 亮子（美術館学芸員）
日程：6月20日（土）
場所：コレクションギャラリー2
参加者：10人

4 「まなざしの向こう側～後期～」
講師：大城 仁美（美術館学芸員）
日程：7月18日（土）
場所：コレクションギャラリー1
参加者：8人

5 「版画にみる多様性～技法と表現～」
講師：仲村 美奈子（保存修復担当学芸員）
日程：9月19日（土）
場所：コレクションギャラリー1
参加者：12人

6 「沖縄の美術」
講師：翁長 直樹（美術館副館長）
日程：10月17日（土）
場所：コレクションギャラリー3
参加者：7人

7 「貴方を愛する時と憎むとき」
講師：新里 義和（美術館学芸員）
日程：1月16日（土）14:00~15:00
場所：コレクションギャラリー2
参加者：16人

8 「水島源晃写真展」
講師：仲村 美奈子（保存修復担当学芸員）
日程：2月20日（土）14:00~15:00
場所：コレクションギャラリー1
参加者：15人

■鑑賞ボランティア

1 案内役：宮島 さおり
日程：4月18日（土）16:00~17:00
場所：コレクションギャラリー
参加者：8名

2 案内役：下地 慶子、新本 京子
日程：5月30日
場所：コレクションギャラリー
参加者：12名

3 案内役：渡久地 武清
日程：6月20日（土）
場所：コレクションギャラリー
参加者：8名

4 案内役：与儀 美奈子
日程：7月18日（土）
場所：コレクションギャラリー3
参加者：7名

5 案内役：与儀 美奈子・鈴木 美智子
日程：9月19日（土）
場所：コレクションギャラリー1
参加者：7名

6 案内役：湯野川 恭子
日程：10月17日（土）
場所：コレクションギャラリー3
参加者：12名

7 案内役：渡具知 武清
日程：11月21日（土）
場所：企画展示室
参加者：12名

■美術講座

1 「現代美術講座Ⅰ」
講師：前田 比呂也氏（美術家）
日程：4月18日（土）18:30~20:00
参加者：26名

2 「現代美術講座Ⅱ」
講師：前田 比呂也氏（美術家）
日程：5月30日（土）18:30~20:00
場所：美術館講座室
参加者：16名

3 「水彩の技法」
講師：具志堅 誓謹氏（画家）
日程：6月20日（土）18:30~20:00
場所：コレクションギャラリー2
参加者：12名

4 「沖縄と私の写真：写真鑑賞の立場」
講師：勇崎 哲史氏（写真家・プランナー）
日程：7月18日（土）18:30~20:00
場所：美術館講座室
参加者：36名

5 「版を語る-主として銅版画の技法について」
講師：知花 均氏（県立芸術大学准教授）
日程：9月19日（土）18:30~20:00
場所：美術館講座室
参加者：6名

6 「私と彫刻」
講師：西村 貞雄（琉球大学名誉教授）
日程：10月17日（土）18:30~20:00
場所：コレクションギャラリー3
参加者：13名

7 講師：与久田 健一氏（読谷村立博物館館長）
日程：11月21日（土）18:30~20:00
場所：美術館講座室、
コレクションギャラリー3、県民アトリエ
参加者：8名

8 講師：鷹野 隆大氏（写真家）、石川 真生氏（写真家）
日程：1月17日（土）14:00~16:00
場所：コレクションギャラリー2
参加者：48人

9 水島源晃写真集「人びと・私のアルバム」より
講師：新嘉喜 祐司氏（写真家）、金城 棟永氏（写真家）
日程：2月20日（土）16:00~17:00
場所：コレクションギャラリー1
参加者：10人

■バックヤードツアー

1: 6月27日（土）11:00~11:30	参加者：7名
2: 7月25日（土）11:00~11:30	参加者：6名
3: 8月22日（土）11:00~11:30	参加者：7名
4: 9月26日（土）11:00~11:30	参加者：9名
5: 11月28日（土）11:00~11:30	参加者：1名
6: 12月27日（土）11:00~11:30	参加者：4名
7: 1月30日（土）11:00~11:30	参加者：6名
8: 2月27日（土）11:00~11:30	参加者：16名
9: 3月27日（土）11:00~11:30	参加者：11名